Thank you

国見町 地域おこし協力隊 2020年のお仕事まとめ

MEMO

現在、国見町では５名の地域おこし協力隊が働いています。地域おこし協力隊は役場に所属し、各担当分野で国見町の地域活性化を担っています。

移住者である私たちが国見町でのびのび暮らし、町おこしの仕事ができているのは暖かく迎え入れ、協力してくださる町民の皆さんのおかげです。今回は日々の感謝とともに５名の１年間の活動をまとめたので、ぜひご一読下さい！

今年４月からは新たに３名の地域おこし協力隊も加わり、駅前のアカリで放課後塾もスタート。ますます賑やかになる国見町地域おこし協力隊をこれからもよろしくお願いします！

地域おこし協力隊のメンバー

門口　礼（かどぐち　れい）
令和元年４月着任　福岡県出身
担当：教育事業

石橋　奈々（いしばし　なな）
令和元年４月着任　千葉県出身
担当：教育事業

田上　沙慧美（たのうえ さえみ）
令和元年５月着任　熊本県出身
担当：関係人口創出事業

佐藤　温（さとう のどか）
令和２年５月着任　神奈川県出身
担当：教育事業

岡野　希春（おかの きはる）
令和２年６月着任　神奈川県出身
担当：関係人口創出事業

田上沙慧美

こんにちは早いもので移住してこの春で2年が経ちます。今回は、この1年間の私の活動をご紹介させて下さい！

ーコロナ禍での企画ー

1年目の活動では、東京を中心に国見町を知ってもらうイベントや沢山開いてきたので、2年目は、これまで出会った県外の方々に向けて二泊三日で国見に実際に来てもらうツアーを計画していました。しかし、コロナの影響を受け、ツアーの計画を延期。インターネット環境を活かしたオンラインイベントに方向転換しました。多くの人たちが自宅待機により余裕が生まれた時間を活かして、地域と繋がり国見町で生きる若手と交流できるイベントを開催しました。オンラインイベントでは、まちづくりや起業の選択、好きを仕事に繋がる考え方、農業と食についてをテーマに「語りバー」というシリーズで展開してきました。このオンラインイベントから、一泊二日で開催したリモートトリップに繋がったり国見町に興味を持ってくれた人も。

ー二泊三日のツアーー

コロナの影響が少し収まりだしGoToキャンペーンが始まり、人の移動が緩和された秋、「国見ホイスコーレ事業」では、国見町に実施に来てもらうツアーを実施。感染対策を入念に行った上で、ツアーのプログラムは、町歩きや農業体験など外に出て国見町を体感し、町民の暮らしや価値観に触れるプログラムを中心に計画。県内外から5名の若者が参加してくれ、なかには国見ホイスコーレ事業を通して3度も国見町を訪れた人も。少しずつ国見町のコアなファンが生まれいることを実感しています。また、ツアーで振る舞ったのは、町内の農家さんが育てた野菜をふんだんにつかった健康的な家庭料理。農薬を極力使わずに作った採れたて野菜の美味しさに参加者の皆さんもとても喜んでくれ、使いきれなかった野菜は各自、持ち帰ってらったことで、参加者は自宅の家族にも国見の野菜を使った料理を振る舞ったりして、国見野菜の美味しさがまた少し広がりました。

ー野菜・果物の定期便ー

コロナの影響で内食の需要が増えた背景に目を付け、国見で採れた新鮮でカラフルな野菜の宅配便を開始。今年度は二月までの期間限定のサービスとして試行しました。今後も野菜の宅配便は続けていく予定です。

今年度は出荷日を固定して発送してきましたが、購入者が柔軟に発送日を選ぶことができるなど、購入者にとってより便利な方法で運用できるよう改善して次年度からまた再開する予定です。

ー任期3年目に向けてー

地域おこし協力隊としての任期は残り1年。国見町での生活を通して向き合うことができた自分のこれからの暮らしや仕事を実現できる方法をこの1年考えてきました。縁あって移住した国見町と任期終了後もずっと繋がり続けることができるよう、国見の野菜や私の地元熊本県の食材を活かした料理と美味しいスペシャルティコーヒーを、ゆったりした空間で楽しんでもらえるカフェを開業したいと思っています。お店を起点に国見町の野菜やフルーツの美味しさをより実感してもらえたり、町外の若者が国見町に来るきっかけ作りや、町の皆さんの憩いの場を作れればと思っています。開業に向けて、やらなければならないことや課題はまだまだ山積みですが、これから急ピッチで進めていくのでお店ができていくプロセスもぜひ町の皆さんと共有できる機会を作っていければと思っています。

国見町の地域おこし協力隊になってから、毎年初挑戦の連続です。わからないながらも模索し続ける日々のなかで、少しつず深まる町の皆さんとの繋がりや、声を掛けてくれる方々の優しさが日々の励みになっているので、引き続き応援して頂けると嬉しいです。

これからもどうぞよろしくお願いします！

佐藤温（のどか）

こんにちは。昨年5月に着任し、教育事業で活動してきました。今回は今年度の成果報告として、僕自身が立ち上げた「ホウカゴ塾noff（ノフ）」について詳しく書いていきたいと思います。これは、国見町在住の高校生を対象とする、学びのあるサードプレイスです。昨年9月から、藤田駅前の施設「Co-learning Spaceアカリ」に集まって活動してきました。

名前には「塾」が入っていますが、カリキュラムの決まった勉強を教えるわけではありません。昨年10月には、6名の高校生たちが、「くにみスープ」に出場。国見町を元気にするアイディアをプレゼン形式で競い、参加者から賞金を得る形式のイベントでした。準備期間には、多い時は週に4回ほど、遅くまで時間と体力を割いて考え抜き、大人に響くプレゼンを練習し、最後には町役場職員の出場者と競って優勝を果たしました。その後は、「オリジナルの絵本を作る」というアイディアの実現のため、活動を続けています。

ある時、「そんなこと頑張ってなんの意義があるの？」という声が届いたことがありました。確かに、ここで頑張ったからといって、学校の成績のためにもならない。受験で有利になるわけでもない。アルバイトのようにお金がもらえるわけでもない。では、なんのためにやるのでしょうか。

答えとして僕が掲げるのは、「わかりやすい意義が与えられない環境で挑戦することに意義がある」ということ。子供は、多くの「するべきこと」に囲まれています。宿題、受験、部活、バイト…、わかりやすい意義が設定されているものが多い。しかし、就職活動や実際の仕事では、「あなたは何がしたいのですか」という問いを投げられます。結果、「働く意義」「生きる意義」をさほど明確に持てず、なんとなく納得感が薄いまま生きている人が多いように思います。僕の周りにもそんな人が多くいますし、僕自身もその当事者です。だからこそ、国見町の高校生たちには、意義を自分で作るところから挑戦して欲しい。そんな思いから、「この町はどうしたらよくなるだろう」「良い町ってなんだろう」「自分自身がやりたいことってなんだろう」といった問いに向き合ってもらいました。そもそも正解はありませんし、すぐには答えが出てこないことばかりです。これを無意味な時間と捉えることもできますが、こんな状況が社会のリアルではないでしょうか。いくらでも失敗のできる時期に、思い切り挑戦してみる、その過程から1つでも学べる人になっていく。そんな場としての意義を掲げて走った今年度でした。

そんな挑戦をしたからこそ、生まれた変化がありました。２０１７年から続いている「新免先生のめっちゃおもろい塾」は今年度も、「音楽」「スポーツ」「アート」「ファッション」をテーマに開催。

株式会社FoundingBaseの新免琢也氏による探究授業に加え、「ファッション」回では新たな試みをしました。それは、授業内容を元に、自分だけの衣服をデザインするというもの。「自分はどんな人か」「何を訴えたいか」を、掘り下げに掘り下げ考えに考え抜いて中高生がそれぞれの思いを込めたデザインを作り上げました。

他にも今年度は、学びのある短期ツアー「国見ホイスコーレ」や、オンラインでまちづくりを学ぶ「エリアデザイン・ラボ」の運営スタッフなど、さまざまな機会をいただいて活動してきました。改めて、町民のみなさんへ感謝でいっぱいです。若者世代の居場所がさほど多くない国見町。教育という手段で、まちの魅力を作り上げる旅はまだまだ道半ばですが、来年度以降も挑戦を続けていきます。改めて、これからもよろしくお願いいたします！

門口礼　こんにちは。今年度は、コロナウイルスの感染拡大で大変な1年でしたね。4月には、緊急事態宣言が発表され、学校が休校になるなど、国見の子どもたちにとっても負担の大きい一年となってしまいました。そんな状況下で、子どもたちや保護者の方にできることは何かを考え活動に取り組んだ1年となりました。その取り組みの一部をこちらで紹介させて頂きます。

―オンラインくにみ学びサポート―

ビデオ通話しながら子どもたちの学びをサポートする「オンラインくにみ学びサポート」の活動をしました。休校や外出自粛で、人と触れ合う機会のなかった子どもたち。一日中家でじっとしていることは、大変なストレスだったと思います。そんな子どもたちが少しでも息抜きできる場になったら良いと思い、インターネット上で、一緒に遊んだり勉強したりしました。参加した子の保護者様からは、「家庭でも学校でもない場所、親でも学校の先生でもない人と楽しくすごせるのは貴重だと思いました。有り難いです。」といった声を頂きホッとしました。

―放課後学び舎―

6月頃からは、「放課後学び舎」という活動に取り組ませて頂きました。「放課後学び舎」は、国見小の子どもたちの放課後の学びをサポートする取り組み。宿題や勉強のサポートを受けられるだけでなく、お化け屋敷を作る企画など、座学だけでない「総合的な学び」に子どもたちが取り組める場所を目指し、企画しました。ここでは、子どもたちが一年間を通じ取り組んだ「お化け屋敷を作ろう！」という企画を紹介し、子どもたちの学びの一部を知っていただければ幸いです。

＝「お化け屋敷を作ろう！」企画＝

10月31日、国見小学校体育館2Fをお借りして、おばけやしきを実施しました。おばけ屋敷を企画、準備、運営したのは、すべて国見小学校の子どもたちです。

6年生のある女の子が「放課後学び舎でお化け屋敷をやりたい！」と「自らのやってみたいこと」を宣言してくれたことから始まった企画。同じくお化け屋敷を作ってみたいと思った子もチームに参加し、演出・企画、小道具・大道具の作成など半年の準備期間をかけて、一からお化け屋敷を作りました。

実施後、運営チームになった子からは、「お客さんの反応がよすぎて楽しかった」「高校生や大学生でつくるものと思っていたけど、自分たちだけでおばけやしきをつくれると思わなかった」といった声があり、一から企画を作っていけたという達成感と様々な学びを得たようでした。

今回は、国見の子どもたちと共に学んだ一年間について、その一部を紹介させて頂きました。

コロナウイルスの感染拡大などで大変な時期がしばらく続きそうですが、みなさま、そして国見の子どもたちの今と未来がより良いものになるよう、願っております。拙い文章にも関わらず、お読み頂きありがとうございました。

石橋奈々　皆さんこんにちは。暖かい日が多くなり、春がきましたね。年度終わりである3月は、学年や学校、職場などさまざまな環境の変化を目前にしている方も多いのではないのでしょうか。寒いのが苦手な私は、春を迎えてあたたかい日が増えるのは嬉しくもあるのですが、なんだか3月特有の「変化」の空気感に心がそわそわしています。そんな私の、今年度の活動について紹介します。

―オンラインくにみ学びサポート―

ちょうど一年前の3月、コロナウイルスの影響により緊急事態宣言が出され、小中学校が休校になりました。年度の変わったタイミングで、友達とも会えず、遊びにもいけない、宿題がたくさん！という状態の子どもたちに向けて何ができるだろうかと考えました。そこで思いついたのが、ネット上で画面を通じて会話ができるアプリ「zoom（ズーム）」を使ったオンラインの学びサポートです。国見町の小学生～中学生を対象とし、その子自身のやりたいことをサポートできる仕組みを考案。利用してくれた保護者の方からは「家にいるとなかなか勉強に集中できないが、その時間は宿題に集中して取り組めている」という声や「なかなか人との交流ができない中で、家にいても楽しく遊べるのはとてもありがたい」という声をいただきました。活動の様子は福島民報新聞・福島民友新聞にも取材していただきました。

この時期は、今まで経験したことのない事態にストレスを抱えていた方も多かったと思います。私たちも、パソコンの動作がうまくいかなかったり、4月から始動しようとしていた活動ができなかったりしてやりきれなさを感じていましたが、パソコンの画面上で子どもたちの笑顔を見る度に「今できることをやること」の大切さに気付かされました。

―放課後学び舎―

緊急事態宣言が解除され、学校も再開し、6月中旬から「放課後学び舎」が始まりました。国見小学校5～6年生を対象とした放課後支援事業である「放課後学び舎」は、予想を上回る50名以上の申し込みがあり、週に3回、子どもたちは学校おわりに一目散に「放課後学び舎」に来てくれました。「つかれたー！」「パソコンやるぞー！」「今日学校でね～」とそれぞれの思いを聞けることが本当に嬉しかったです。放課後学び舎で一番大きく感じたことは、子どもたちは「自分で考え決める力」を持っているということです。大人はどうしても子どもになにかを教えたくなってしまいます。子どものことが大事で心配だからこそ、自分の経験則から「もっとこうしたらいいのに」「これをやったほうがいいのに」と思ってしまうのです。私自身もものごとについては何度も悩み、葛藤しました。

ですがその中でも一番大きかったのは「そこにある子どもたちの姿」です。何も指示しなくても、やりたいことを見つけ、思う存分楽しんでいる。うまくいかなくても、自分でなんとかしようとしている。そんな姿が本当に頼もしく、自分自身の役割やあり方を問うきっかけにもなりました。子どもたちの学ぶ姿から、たくさん学ばせていただきました。

かかわってくださった皆様、影で応援してくださり見守ってくださった皆様、本当にありがとうございました。今ここにある子どもたちの笑顔は、未来の希望です。たくさんの可能性と未来がつまった責任のある事業に携わらせていただき、とても幸せでした。ありがとうございました。

岡野希春　こんにちは。昨年6月に国見町での活動が始まり、町内外の方々とたくさんのご縁をいただきました。今回は国見ホイスコーレでの活動内容について振り返りたいと思います。

―国見ホイスコーレ―

「国見ホイスコーレ」は、デンマークのフォルケホイスコーレのエッセンスを取り入れ、「人生の学校」というコンセプトで発足しました。現在は、中学生向けの「国見プロジェクト学習」、高校生～若手社会人向け「エリアデザイン・ラボ」、大学生～社会人向けの「短期ホイスコーレ」の3つのプロジェクトを通して、一気通貫した学びの場を作っています。そして、「学び」の対象を「自分らしく、よりよく生きることに繋がること」と広く捉え、暮らしやライフスタイル、働き方に向き合うイベントの企画など、オン・オフライン問わず、少しずつ活動の幅を広げています。

―短期ホイスコーレの企画―

今年は対面での開催ができないこともありましたが、オンラインと組み合わせながら実施しました。いずれも大切にしているのは、町の空気感や人との出会いを通じたプログラムづくり。そして町内外問わず参加者が何かひとつ持ち帰ることができるアウトプットをすること。私自身も初めて暮らす町の価値を毎回振り返る機会になったり、言語化することでさらに多くの方に伝えることができると感じました。

また、今年度は変化を問われる年であり、地域に目を向ける方が増えていると感じております。そんな時に私たちが何か提供できる場があればいいなと思いますし、これからも町に興味をもって様々な関わり方ができるきっかけを作っていきたいと思います。

―美味しい物作り旅の案内人―

ホイスコーレよりもライトなテーマから、国見町で活躍する方をゲストに迎え、多様な人の仕事と人生観を掘り下げました。旅のアイテムになるのは、生産者の方が愛情を込めて作った国見町の美味しいモノ。国見町は人の温かさと1年を通して季節を楽しむことができるのが魅力のひとつと感じており、参加者の方と楽しみながら国見町を身近に感じるイベントとなりました。

―エリアデザイン・ラボの運営スタッフ―

名称を変えながらも約4年以上にわたって町内及び県北地域の高校生、大学生と国見町とでイベントを企画してきました。ラボは、実践講座とゲストトークの2つで構成され、実践講座では、マルシェの出店企画・運営を行い、ゲストトークでは福島県を舞台に活躍している肩書き一つでは言い表せない多彩なゲストと出会い、多様な価値観を学びました。私自身、様々な生き方や働き方をしている方の話から日々アイデアをもらい、自分は何を選択をして集中すべきかを問いながら他の活動に活かす時間となりました。

今後も国見町の未来のために、これまでのつながりを大切にしながら継続的な関わり方ができるように進めていく次第です。よろしくお願いいたします！